

ジェンダー平等を基軸にした大学評価のあり方についての研究 —学生・院生のキャリアデザイン支援を中心に

【代表者】

西垣順子 大阪教育大学 大学教育研究センター 准教授

【共同研究者】

飯吉弘子 大阪市立大学 大学教育研究センター 教授

安達智子 大阪教育大学 教育学部 准教授

山口真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師

伊田勝憲 立命館大学 教職研究科 教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

ジェンダー平等の推進と大学評価のあり方については、それぞれを別々に扱う研究は多く存在するが、両者をクロスさせた研究は稀有である。実際、大学が受審を義務付けられている認証評価などが、大学のジェンダー平等推進に役立っているとは言いにくいのが現状であろう。

他方で大学評価は、学生の学習が充実したものであることを基軸に行われる。そのためジェンダー平等という観点からは、大学構成員の男女比のみではなく、マイノリティ的存在のジェンダーを生きる学生のニーズに応じた教育が効果的になされているかが評価されるべきでもある。

そこで本研究は、キャリアデザイン支援に焦点を当てつつ、ジェンダー平等と大学評価をクロスさせた研究も多く行われている米国の大学に注目して、今後の大学評価のあり方を探ることとする。具体的には（１）文献調査と訪問調査によって米国の大学の現状と課題について知るとともに、（２）日本の高校・大学におけるキャリア形成支援や学習動機づけに関する調査・実践研究成果を持ち寄って分析する。また（３）両者の比較を通じて、今後の大学評価のあり方について考察する。